

石川県立美術館だより

平成17年9月1日発行 第263号

吉田富士夫 - 手品師の息づかい -

8月25日(木)~9月19日(月・祝)会期中無休

午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで) 8月27日(土)は午後8時まで開館



催眠術 87(猫) 昭和62年 吉田富士夫 小松市立宮本三郎美術館蔵

目次

吉田富士夫 - 手品師の息づかい -	2
尊経閣文庫名品展	3
歌と書の世界	3
今月のコレクション展示室 主な展示作品...4	
企画展TOPIC(サントリー美術館名品展)...5	

企画展TOPIC(没後20年 鴨居玲展).....	5
ミュージアムレポート、企画展示室.....	6
第35回現地見学参加者募集、9月の行事案内...7	
所蔵品紹介、次回の展覧会.....	8
ミュージアムショップ通信.....	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

今月のコレクション展示室
(第3展示室)

特別陳列

吉田富士夫
- 手品師の息づかい -

8月25日(木)~9月19日(月・祝)



ペットたち 昭和47年



ヴギウギ 昭和24年



吉田富士夫氏

洋画家吉田富士夫氏は、道化師や手品師、催眠術師をテーマに幻想的な作品を描き続けたことでよく知られます。その画面は、艶のある透明な絵具を何層

も重ねて作りあげたもので、テーマと相まって、切なく美しい独自の雰囲気醸し出しています。

マチエール(絵肌)の美しさは油絵具の魅力の一つですが、意外と無頓着な作家が多いものです。なかで吉田氏の透明感を持った美しい絵肌は際立っています。それは画業を始めるに際し、氏が陶磁器の絵付けを職業としたことと深く関わっていると思われる。陶磁器制作は画業と並行して生涯にわたって行われ、数々の個展を開催し、陶芸家としても名を馳せました。吉田氏のイメージの源泉は幼い頃に見たサーカスや、かつて「北陸の宝塚」ともいわれた内灘・粟崎遊園での、少女に催眠術をかけて浮かべる手品の思い出であったといえます。いずれの作品にも不思議な物語があり、観る者は美しくも哀しい画面のあちこちをさまよい歩き、尽きぬ思いを抱くのです。

こうした不可思議な物語性は、吉田氏が若き日に4年間スペインへ陶芸指導に招かれ、ゴヤやベラスケスを知ったことで、より展開していったと考えられます。つまり、ベラスケスの鏡を多用した虚と実が渾然とした世界、またゴヤの『カプリチオス(気まぐれ)』などに見られるような謎めいた黒の世界、これらが吉田氏の哀調を帯びた画面に、不気味なドラマを潜ませて、骨太の絵画世界を築き上げているのです。

本展は二紀会重鎮として活躍された吉田氏の創作の軌跡を、初期の墨彩画から晩年の文楽をテーマとする和のイメージを強めていった油絵まで、当館所蔵品に吉田家並びに各機関所蔵の優品を交えてご覧いただくものです。

略歴

昭和4年5月25日金沢市生まれ。21年石川県立工業学校図案科卒業。22年日本硬質陶器株式会社図案科入社。24年第3回二紀展初入選、25年同展佳作賞、26年同展褒賞受賞、宮本三郎に師事。29年から4年間に陶芸技術が評価されてスペインに招かれて指導。44年二紀会会員推挙。45年以降二紀会北陸支部長をつとめる。51年第30回記念二紀展宮本三郎賞、55年二紀展文部大臣賞。平成2年同展菊華賞、6年栗原賞、8年第50回記念賞受賞。一紀会評議員等の要職を歴任し13年逝去。

主な作品

ヴギウギ	昭和24年	個人蔵
仲間	昭和45年	湖南学院蔵
ペットたち	昭和47年	石川県立工業高等学校蔵
仮面の告白	昭和52年	石川県立美術館蔵
催眠術「浮く」	昭和53年	金沢市文化ホール蔵
孤高の指揮者	昭和54年	小松市立宮本三郎美術館蔵
催眠術80A	昭和55年	石川県立美術館蔵
催眠術87(猫)	昭和62年	小松市立宮本三郎美術館蔵
傀儡師	平成2年	石川県立美術館蔵
交霊術・HARP	平成8年	石川県立美術館蔵
蘇生の時	平成10年	小松市立宮本三郎美術館蔵



逢う魔が刻の笛の音 平成6年



催眠術 80A 昭和55年



催眠術 - 浮く - 昭和53年

今月のコレクション展示室

特集

尊經閣文庫名品展(前田育徳会展示室)

歌と書の世界(第2展示室)

前期:8月25日(木)~9月6日(火)

後期:9月7日(水)~9月19日(月・祝)

前期、後期で一部の作品の展示替えを行います。



詩絵和歌の浦図見台 伝清水九兵衛作

今年には『古今和歌集』成立一一〇〇年、『新古今和歌集』成立八〇〇年の節目の年にあたります。そこで、前田育徳会展示室と第2展示室の両室では、筆跡の美しさとともに、古人が和歌に詠んだ精神世界に親しんでいただくための特集展示を開催いたします。

『古今和歌集』は、九〇五年(延喜五年)四月、醍醐天皇の勅命を受け、紀友則、紀貫之、凡河内躬恒、壬生忠岑の四人の撰者により編集された、わが国最初の勅撰和歌集です。

この時代の公式文書は漢文であり、男性の書く文章は漢文でした。和歌は日本の歌であり、やまと歌ともいわれ、女性が使っひらがなで書かれます。当時の男性が女性に想いを伝えるには、ひらがなで書く「和歌」を贈る方法しかありませんでした。人の心を伝える唯一の手段である「和歌」は、今日のラブレターといふことになりましょか。『古今和歌集』仮名序の冒頭部分に次のように記されています。

「やまとつたはひとのこころをたねとしてよろづのことのはとぞなれりける。よのなかにある人ことわざしげきものなれば心におもふことを見るものきくものにつけていひいだせるなり」

このように、日本人の感情の発露として最もふさわしいものが和歌であると、紀貫之はひらがなを用いて記しています。

今回展示する国宝の『古今和歌集』(清輔本)は、藤原清輔(一一〇四~七七)が書写したもので、本文の上下の行間に墨書、朱書の注記が多く書き入れているのが特色です。これは清輔が歌人というよりも、歌学者であったため、本文の整理、抄注、傍証などに綿密さが打ち出されており、『古今和歌集』研究史上において最も貴重です。

また今回は三点の手鑑を展示します。手鑑の手は筆跡を、鑑は鏡を意味しますが、古人の筆跡の鑑賞、鑑定さらには手本として、名筆の断簡を蒐集し帖に編集

したものです。天皇・公卿・僧侶・武家などが書いた和歌集、漢詩集を書写した冊子本、卷子本、経巻等の断簡(古筆切)が集められています。重文の手鑑「野辺のみどり」は、一九三七年(昭和十二年)に前田利為侯が、前田家に古くから伝わる古筆のなかから、最も優れた古筆と最も珍しい古筆を選ばせて、古筆切二十八枚を押して作らせたものです。重文「手鑑」(金沢市立中村記念美術館蔵)は前田家伝来で、古筆切一九〇件が収められた大形の手鑑です。この手鑑には脱落した古筆切があり、そのうちの七葉が「野辺のみどり」に編成されています。

その他左記の作品を展示いたしますので、文字の美しさとともに、その奥に秘められた筆者の心情を探ってみられてはいかがでしょうか。

前田育徳会展示室

●古今和歌集 伝藤原清輔筆 平安時代

●広田社二十九番歌合 藤原俊成筆 承安二年(一二七二)

●賀陽院歌合 永承五年(一一五〇)

●花月百首撰歌稿 藤原俊成筆 建久元年(一一九〇)

●手鑑「野辺のみどり」 平安・鎌倉時代

第2展示室

●手鑑 前田家伝来 奈良・江戸時代

●手鑑 山川家伝来 奈良・江戸時代

●手鑑 関白内大臣家歌合 藤原基俊筆

●手鑑 山家心中集 伝西行筆

●手鑑 薄木版下絵詩歌(和漢朗詠集) 本阿弥光悦筆

●手鑑 古今集巻第十八断簡(本阿弥切) 伝小野道風筆 平安時代

●手鑑 詩絵和歌の浦図見台 伝清水九兵衛作 江戸時代

●手鑑 重要文化財

●手鑑 重要美術品

●手鑑 石川県指定文化財



手鑑より 和歌切 伝後花園天皇筆 前田家伝来 金沢市立中村記念美術館蔵

今月のコレクション展示室 主な展示作品

8月25日(木)~9月19日(月・祝)

● = 国宝 = 重要文化財 = 重要美術品
= 石川県指定文化財



蜘蛛の糸 鴨居 玲

前田育徳会展示室

特集 尊經閣文庫名品展

3ページをご覧ください。

第1展示室

●色絵雉香炉

色絵雌雉香炉

野々村仁清

野々村仁清

第2展示室

古丸谷

色絵鶴かるた文平鉢

色絵布袋図平鉢

色絵鳳凰図平鉢

色絵鶉草花図平鉢

色絵百花散双鳥図平鉢

青手樹木図平鉢

青手桜花散文平鉢

特集 歌と書の世界

3ページをご覧ください。

第3展示室 (油彩画)

特別陳列 吉田富士夫—手品師の息づかい—

2ページをご覧ください。

第4展示室 (油彩画・素描・版画・彫塑)

油彩画

小石川植物園より

サクレクール寺院

麦秋

素描

競走馬

版画

停船

灯台のある風景

飛鳥哲雄

高光一也

碓伊之助

南 政善

南 政善

ベルナール・ガントナ

碓伊之助

彫塑

夏 鯛雲

波乗り

木村珪二

得能節朗

山瀬晋吾

第5展示室 (工芸)

陶磁

黒絵立鼓花器

彩釉鉢

漆工

金胎蒔絵盤「瑞鳥」

染織

友禅訪問着「朝もや」

金工

短刀 銘戊辰年八月日

截金 截金香盒「蓬生」

十代大樋長左衛門

三代徳田八十吉

寺井直次

寺井直次

中町博志

隅谷正峯

隅谷正峯

西出大三

第6展示室 (日本画・油彩画)

日本画

黄樹のある風景

路地

火焰山

枯れはす

岩壁

油彩画

蜘蛛の糸

印度の女

熱叢夢

下村正一

中町 進

西山英雄

平桜和正

曲子光男

鴨居 玲

南 政善

宮本三郎

一般 350円	個人	観覧料
大学生 280円		
高校生以下は 無料		
一般 280円	団体 (20名以上)	観覧料
大学生 220円		
高校生以下は 無料		



火焰山 西山英雄



金胎蒔絵盤「瑞鳥」 寺井直次



波乗り 山瀬晋吾

企画展 TOPIC

サントリー美術館名品展 - 日本美術の精華 - 第2回



国宝 浮線綾螺鈿蒔絵手箱 (前期展示)

サントリー美術館では「生活の中の美」をテーマに作品収集を行っています。同館のコレクションを紹介する今度の企画展では、展示構成を6章に分け名品を展示します。本号では各章の代表作をご紹介します。(作品保護のため、前後期で絵画・漆芸作品の展示替を行います)

第1章 花鳥の美 「重要文化財 四季花鳥図屏風」

画中には多種にわたる花木や草花が並び、その間には鳥が飛び交っています。この作品の各部は、中国明時代の花鳥画を手本としながらも、伝統的な大和絵風の並列的な画面構成がなされた作品です。(前期展示)

第2章 異国との出会い 「重要文化財 泰西王侯騎馬図屏風」「重要文化財 南蛮屏風」

サントリー美術館のコレクションの代表作といえば、まずこれらの作品を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。「泰西王侯騎馬図屏風」は日本人の手になる本格的な初期洋風画で、遠近法や陰影をつけるなどの西洋画法と在来の金碧画様式が見事に融合した作品です。(前期展示)

また「南蛮屏風」の筆者と伝える狩野山楽は、桃山時代の美術の特徴である豪壮な障屏画に腕を振った時代を代表する画家の一人ですが、この作品では珍しい外国の文物を描き漏らすまいという意気込みが感じられ、緻密で装飾性の高い作品になっています。(後期展示)

第3章 遊楽と宴のかたち 「葡萄架風粟輪沈金太鼓樽」

太鼓樽は漆の酒器の一つで、宴会や祝儀の場で慶賀の気を揚げるためにこのように形や装飾に凝った物が作られました。本品は沈金で繊細な文様が両面に描かれた珍しい作品です。(前期展示)

第4章 装いとたしなみ 「国宝 浮線綾螺鈿蒔絵手箱」

箱全体の文様は、素地に円形の貝を貼り並べ、全体を金地に塗り上げた後、貝の部分に綾織文様の浮線部分のみを表出させたものです。金地と螺鈿の白い輝きが典雅な雰囲気を出しています。また蓋裏は蒔絵で草花や花卉を描いています。(前期展示)

第5章 詩歌と物語 「重要文化財 小倉山蒔絵硯箱」

室町時代の五十嵐派の作品と考えられています。蓋表は晩秋の小倉山を、蓋裏には住吉神社の社殿を、見込みには龍田川と、それぞれ名所(歌枕)を蒔絵で描いています。(前期展示)



重要文化財 泰西王侯騎馬図屏風(部分) (前期展示)

第6章 茶の湯の美 「重要文化財 染付金彩芒文蓋物」尾形乾山作

被せ蓋作りの蓋物で、蓋表には、白泥、金彩、染付で生い茂る芒を、見込みには、白化粧掛けした上に染付で更紗風の格子文様を描いています。乾山の蓋物の中でも優品と知られる作品です。

(北澤 寛 学芸主査)

「サントリー美術館名品展 - 日本美術の精華 -」の会期は、9月23日(金・祝)~10月23日(日)です。

(前期展示: 9月23日(金・祝)~10月7日(金) 後期展示: 10月8日(土)~10月23日(日))

企画展 TOPIC

没後20年 鴨居 玲 展 - 私の話聞いてくれ - 第1回



赤い髪

鴨居玲が神戸の自宅で亡くなられてから今年で20年が経ちました。享年57。この間、機会あるごとに大きな回顧展が開かれてきました。その度に新たなファンを得ているのでしょうか、ネットで鴨居玲と検索しますと、多くの方々が熱く語っていらっしゃるのに驚きます。残された作品が人の心を打ち続けているのです。画家冥利というものでしょう。

さて、節目節目に展覧会となると、今度はどういう切り口でご覧いただくかと悩みます。むろん、画家の渾身の作品を前に、学芸サイドの切り口などいかほどのものかと思うのですが、何か前と違うところをと考えるのは人の常というものです。そこで今回は鴨居の初期作品にスポットをあてることにいたしました。

鴨居作品というと、芝居掛かった一瞬のポーズを切り取った「静止した刻」や男達がゲームに興ずる「サイコロ」などのシリーズ、そしてしむだらけの老婆、廃兵、自画像といった、クラシックな描写がなされる重厚な作品が思い浮かびますが、初期には水彩やパステルでシュールっぽい絵をずっと描いているのです。時代でいえば昭和20年代末から南米、パリ、ローマを彷徨った42年頃までがそれに

あたります。

今回の没後20年展、全110余点の出品作中、26点がこの時代の作品です。回顧展では今回が初という作品もかなりありますので、これは必見でしょう。

鴨居が画業を開始した昭和20年代末から30年代にかけては、日本の美術界をアンフォルメル(非定形)旋風が席卷し、だれしもが抽象を描いた時期でした。写実の中堅画家ですら、この時代作風がブレているのです。普通、美術学校を卒業したばかりの画家の卵であれば、すんなりと抽象に入っていくものなのですが、ここが鴨居の面白いところで、悩むわけです。つまりあまりに容易く絵ができてしまうことに苛立つんです。こんな簡単なことを一生やられるかと。

一時は油絵を描くことをやめます。師の宮本三郎に「絵をやめて役者になる」と言って、一喝されて思いとどまったという逸話が(おそらく、かなり脚色されてはいるのかもしれませんが)残るのはこの頃でしょう。

南米で自殺を思ったのは昭和40年、鴨居37歳の時です。この年の年譜に鴨居はこう書いています。

制作に自信を失い、春頃、既にサンパウロに移り住んでいた若林和男を頼り、ブラジルに渡る。その後、ポリビア、ペルーと流浪荒芒の日々をおくるが、司馬遼太郎からの伝言に励まされパリに渡る。

元々ドラマチックな性格が、日本洋画壇の最もドラマチックに変化した時代に翻弄され、しかも自分の資質が『人間を描く』という、この時代同世代の画家にはあまりないものであったために、10年あまりももがき抜いたのだらうと思うのです。でもこの後鴨居の快進撃が始まるのです。

(二木伸一郎 学芸専門員)

「没後20年 鴨居玲展」の会期は、11月10日(木)~12月11日(日)です。

ミュージアム レポート

キッズ 鑑賞講座

6月4日(土)春の優品選を鑑賞しよう



小学生を対象とした展覧会鑑賞講座が今年度も開講しています。今回は「優品選を鑑賞しよう」と題して企画・コレクションと両方の展示室を鑑賞しました。

今回は「截金」に焦点を絞り、截金の技法について知った後、金箔の代わりに、色紙を使って截金に使われている代表的な模様を作ってみました。企画展示室内では仏像や仏画の中に使われている截金部分を探し、鑑賞。古い仏像仏画の中に今なおきらり輝く金箔の模様に参加者は「凄い！きれい！」と感嘆の声を上げていました。コレクション展示室内では西出大三氏の作品を鑑賞。細かく美しい模様と造形に思い思いの感想を述べてもらえました。

7月2日(土)北出不二雄の世界を鑑賞しよう



特別陳列として第5展示室で開催されていた北出不二雄の世界をこどもたちとゆっくり鑑賞しました。まず講義室で、先生の作品の特徴の一つである釘彫模様に挑戦しました。

かたつむりを紙粘土でつくった板上に描いてみる体験をした後、展示室にてかたつむりが描かれた作品を中心に鑑賞してみました。たくさん作品が並ぶ中、かたつむりが隠れている作品はたくさんありました。かたつむりがメインのもの、隠し味のようにひっそり隠れているもの。作品の表情を楽しみながら、作品全体の雰囲気を楽しんでみました。

次回の鑑賞講座は9月3日(土)吉田富士夫を鑑賞しようです。この機会に私たちとたくさんのお友達に親しみましょう。

ギャラリートーク

6月18日(土)作陶55年記念 北出不二雄の世界



最初に「古九谷への眼と手」という本展の趣旨に共感していただくために、トークは古九谷をはじめ北出氏の美意識を紹介した中央の移動展示ケース群と、作陶の歩みを紹介した壁面の固定ケース群をざっと見渡すことから始めました。ここで、常に新たな表現世界を開拓して、1点として同じようなものを造らなかったことが古九谷の精神であり、北出氏のたゆまぬ技法や表現の追求という創作姿勢の原点もここにあることの認識を参加者の皆さんと共有し、個々の作品解説にはいりました。

北出氏の作品については、文字での解説に織り込めなかった制作の背景を中心に。また古九谷については北出氏が寄せたコメントを出発点として、美の高さや精神的な深さを紹介しました。1時間に及ぶトークでしたが、多くの方が最後までお聴きになり感激しました。

7月23日(土)古九谷・再興九谷



「古九谷・再興九谷名品展」は恒例の展示となっており、これまで何度か列品解説やギャラリートークが行われてきました。従来の解説との重複を避けるため、古九谷開窯の歴史や推移には触れることなく、描かれるさまざまな意匠や裏面の文様、銘などを取り上げた1時間でした。参加の皆さんは、現在にあっても決して時代ずれしていない古九谷の、斬新な意匠に改めて感心しておられたようでした。古九谷については、以前から来館者より「裏面を見たい」という声が寄せられていました。そこで最近の展示では、できるだけ写真で裏面を紹介するようにしています。今回のギャラリートークでは、その写真を拡大したボードを使い、銘の写真をそろえて期待に応えるようにしました。これまで見られなかった部分に皆さん、興味深く見入っていました。

企画展示室

第23回石川県写真家協会展 “ips-japan”

9月3日(土)~5日(月)第7展示室

石川県を中心に活躍するフォトグラファーたちの作品を展示する第23回石川県写真家協会展を開催します。今年のテーマは「ips-japan」。優れた写真を全国や世界に向けて石川県から発信するのが目的です。さまざまなシーンで活躍するプロの写真家の作品が一堂に展示されます。この機会にぜひご来場ください。

入場無料

連絡先 石川郡野々市町下林4 288 2
池田紀幸写真事務所 ☎076 248 6760

北陸中日新聞発刊45周年記念

アート・ナウ KANAZAWA

第44回北陸中日美術展

9月10日(土)~9月19日(月・祝)第7~9展示室

部門 平面・立体・工芸

現代美術の創造を目指す本展は、新人作家の登龍門として幾多の新進作家を送り出しており、個性豊かな力作が数多く出品されます。

全国から応募のあった作品を、美術評論家・針生一郎氏、国立国際美術館長・建畠哲氏の両先生が審査、入賞・入選作品約100点を展示します。

入場料 一般・大高生 600円(500円)

中学生以下無料

()内は前売り・団体料金

当館友の会会員は、会員証提示により団体料金になります。

連絡先 金沢市香林坊2 7 15

北陸中日新聞事業部 ☎076 233 4642

併設 2005年北陸中日写真展入賞作品展(第7展示室)

北陸三県から応募された全紙マットパネル写真を30点展示

第35回文化財現地見学

～「海のある奈良」若狭地方を訪ねて～

参加者募集！

期 日 10月8日(土)～9日(日)
 1泊2日。宿泊は小浜市。
参加費 20,000円(友の会会員以外は21,000円)
募集定員 45名(対象は原則として成人)

見学予定地

敦賀市立博物館、大原山・西福寺(敦賀市) 明通寺(以下小浜市)、若狭歴史民族資料館、羽賀寺、円照寺、妙楽寺、多田寺、神宮寺、萬徳寺

出発時刻と場所は以下の2ヶ所となります。

- 美術館 - 午前7時30分
- JR金沢駅 - 午前8時

申し込みハガキに希望する集合場所をご記入下さい。食事については、旅行代金に2回の昼食と翌日の朝食代が含まれますが、夕食は各自でお願い致します。2日目の帰着時刻は午後6時を予定しておりますが、交通事情等により前後する場合があります。宿泊は原則としてツインルームの利用となります。同室希望者がある場合、ハガキにその旨をご記入下さい。美術館を集合場所に指定した場合、お車をご利用の方は翌日までの駐車が可能です。

お申し込みの方法

往復はがきに下記の事項をご記入し、ご応募下さい。参加証を発行します。応募多数の場合は抽選を行い、参加者を決定させていただきます。抽選会は公開の形で9月15日(木)午前11時に行います。立ち会いご希望の方は11時までに当館講義室へご来場下さい。

往復はがき裏面に文化財現地見学参加希望と明記し、住所・氏名・年齢・会員番号・同室希望の有無・希望する集合場所(美術館の場合、駐車希望の有無)をお書き下さい。

返信はがきの表面には、返信先(住所・氏名)をお書き下さい。

返信はがきの裏面には、何も書かないで下さい。

応募先 〒920 0963 金沢市出羽町2-1

石川県立美術館文化財現地見学旅行係あて

応募締切 平成17年9月14日(水)必着

応募希望者一名につき、往復はがき一通でご応募下さい。お一人で何通も出されたものや、連名のもの、記載事項が不備なものなどは無効となりますのでご注意下さい。

当館からの返信は、再発行いたしません。

ご注意

当選後、参加の権利をキャンセルされる場合は必ず当館へご連絡ください。その後当館より、キャンセル待ちの方へ順番に参加権をお譲り致します。

二日間にわたるバス移動があり、寺院見学が多いため、石段の昇降を含めて、相当の距離を歩くこととなります。移動と観覧時間には 十分配慮いたしますが、お身体の具合、特に足腰に自信のない方は、今回の参加をご遠慮ください。



昨年度見学地 伊勢神宮にて

9月の行事案内 《入場無料・いずれも午後1時30分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
9/3(土)	キッズ 鑑賞講座	吉田富士夫を鑑賞しよう (吉村尚子 学芸主任) 小学生対象の講座です。コレクション展示を鑑賞しながらの講座になります。	講義室 コレクション展示室
9/4(日)	月例映画会	ドラクロワ ロマン主義の逆説 時代に遅れてきた青年(23分) 日本の書(20分)	ホール
9/10(土)	美術講座	石川の肖像画 (村上尚子 学芸主任)	講義室
9/11(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物5 大唐の美術(30分) 正倉院宝物6 新羅千年の美(30分)	ホール
9/17(土)	美術講座	石川県立美術館の近代彫刻コレクション (宮 衛 学芸主査)	講義室
9/18(日)	月例映画会	ドラクロワ ロマン主義の逆説 魂の貴族性について(23分) 西出大三 截金の美(30分)	ホール
9/24(土)	美術講座	石川県立美術館の洋画コレクション (二木伸一郎 学芸専門員)	講義室
9/25(日)	月例映画会	幻視の画家ボッシュ 異端の北方ルネッサンス(23分) 奥会津の木地師 - 福島県田島町針生 - (54分)	ホール

9月の全館休館日は20日(火)～22日(水)です。

作者のモチーフは、花鳥、人物、埴輪、動物など、多岐にわたっていますが、この作品は晩年の動物画シリーズの代表作のひとつです。

チーターの体の向きや顔の方向を少しずつ変化させ、それらをたくみに組み合わせて、三角形の安定した構図の中に配しています。月の輝きを金で表わし、紺色の顔料に水晶沫を加えることで、薄暗い闇の中にも光を感じさせ、幻想的かつ厳肅な雰囲気を感じさせています。静謐な空間の中で瞬時に獲物を捕まえる、すぐれた運動能力を秘めたチーターの表情のうちに、張りつめた緊張感が漂っているようです。

作者は、動物園へ足繁く通い、さまざまな動物たちをスケッチしたといえます。その際つちかわれた鋭い観察眼によって、動物たちのフォルムの特徴を巧みにつかみ取り、その生命の鼓動さえ伝わってくるような表現が可能になったといえましょう。

作者は大阪に生まれ、大阪美術学校に学びました。その後上京し、郷倉千靱や速水御舟、小林古径の指導を受けています。そして、昭和3年院展に初入選、10年奨励賞、39年奨励賞・白寿賞・G賞を受賞し、日本美術院特待として活躍しました。石川とのゆかりは、夫人が七尾出身であったため、終戦後疎開し、十年間ほど七尾で暮らし制作活動を行ったことです。その際、能登の豊かな自然に触れ、「画家は天地自然の中的美を具象し、造形する。その事に使命がある」ことを学んでいったのです。

第6展示室で展示中



こん
昏

うえ だ けい そう
上田 珪 草 明治37年(1904)~昭和60年(1985)

昭和56年 1981
再興第66回院展
縦218.2 横168.5(cm)

ミュージアムショップ通信

日差しも強く、じっとりと汗ばむ季節がまだまだ続いております。女性にとっては化粧崩れしやすい、いや~な季節…。そこで、今月紹介する商品ははずばり、「あぶらとり紙」です。毛穴から出る余分な皮脂を吸い取ってくれる優れもの、女性にとっては必需品であります。今では全国的に有名ですが、金箔を作るときに使用された薄紙を利用しているので、びっくりするくらいよく油を吸い取ります。是非、化粧ポーチに入れておきたいものです。定価は350円(30枚入り)。5種類ありますので好きなものをどうぞ。もちろん、男性の方もご利用ください。



あぶらとり紙(各350円)

次回の展覧会

企画展
サントリー美術展名品展 日本美術の精華
(第7~9展示室)

特集
加賀藩の美術工芸 (前田育徳会展示室)
古美術優品選 (第2展示室)
宮本三郎の素描 (第3展示室)
9月23日(金・祝)~10月23日(日)

8月毎週土曜日は、午後8時まで閉館します。

休館日：9月20日(火)~22日(木)

石川県立美術館だより 第263号

2005年9月1日発行

〒920 0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>